

# 考えを伝え合い、主体的に学ぶ児童の育成

小千谷市立吉谷小学校

## I 学習指導改善の取組

### 1 研究テーマ

「考えを伝え合い、主体的に学ぶ児童の育成」

### 2 テーマ設定の理由

#### (1) 研究の経過から

平成23、24年度は「伝え合う活動」に重点をおいて、各教科の授業をはじめ、道徳や児童会活動など全教育活動で年間を通して継続的に実践してきた。

その結果、教科の学習において自分の考えを積極的に伝える児童が増え、分かりやすく伝えようと工夫するようになった。一方、主体的に課題にかかわり、積極的に自分の考えを表出しようとする児童に限られる実態が残った。その理由として、次の2つを洗い出した。

##### ①学習活動導入時の問題

- ・課題に対する関心や意欲
- ・自分なりの考えをもって課題に取り組む態度

##### ②学習活動終末時の問題

・分かったこと、考えたことを自分の言葉で書く力  
・自分の考えをはっきりさせ、他者と比較したり、考え方の変容をとらえたりする力  
これらの課題を解決し、主体的に課題にかかわり、積極的に自分の考えを表出する児童を育てる必要がある。

#### (2) 児童の学力実態から

学習指導改善調査の結果からも前述した力に加え、以下の力が弱いことが明らかになった。

- ・筋道立てて考え、分かりやすく説明する力
- ・自分の考えを効果的に記述する力

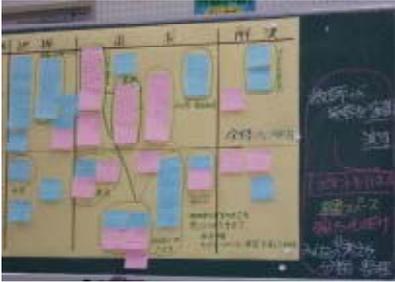
以上の実態から、今年度の学校の重点目標を「自ら考え、判断して行動する子どもの育成～「受動」から「能動」へ～」と設定した。これを受け、研究テーマを「考えを伝え合い、主体的に学ぶ児童」として、授業改善に取り組むことにした。

### 3 具体的な取組

#### (1) 校内研修の取組

今年度は算数科に重点を置き、6月に最初の研究授業・協議会を行い、「伝え合い」に重点をおいて授業改善を行っていくことを確認し、一人一回の研究授業を実施した。

- ・伝え合う必要感のある課題の提示、伝え合いと終末時の振り返りを工夫した授業を提案する。
- ・次の授業者はそれまでに提案された研究授業の成果と課題をふまえた授業を行う。
- ・「研修だより」を通し、授業改善の視点を共有し、改善の取組を継続させる。
- ・県立教育センター「実践力向上研修」を年3回活用し、全職員で授業改善の成果と課題を確認しながら実践研究する。

月	校内研修の取組	★協議会で共通理解したこと
4～5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善の視点の決定</li> <li>・日々の授業改善</li> </ul>	
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○5学年 校内授業研究 「小数のわり算」</li> <li>・研究協議</li> <li>・講義「自校の課題と具体的解決策の検討」 (講義：県センター指導主事)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★「一人の分からない」を「みんなでできた、みんなで分かった」に！</li> <li>★算数を生活場面に生かそう！</li> <li>★家庭学習と連動させよう！</li> </ul>
8	指導案検討会（2・3・6学年） <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義「研究授業と日々の授業改善をつなぐ研修のあり方」 (講義：県センター指導主事)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; width: fit-content;"> <b>みんなで研修→共通理解へ！</b> </div>	
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1学年 校内授業研究「たしざん」</li> <li>○4学年 校内授業研究「式と計算」</li> <li>・研究協議</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>★教師：「この考えはどうですか？」</li> <li>児童：「いいで～す。」からの脱却！</li> <li>互いの考えのほんの少しの違いにも目を向けさせ、比べながら考えさせることを大切にしよう！</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; width: fit-content;"> <b>全員参加の協議会をめざして 授業の成果と課題、 改善策が話し合える協議会をつくる</b> </div>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>○3学年 中学校区公開「小数」</li> <li>・研究協議</li> <li>○2学年 市内公開「かけ算」</li> <li>○6学年 市内公開「拡大図と縮図」</li> <li>・研究協議（指導：県センター指導主事）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★誤答を生かして追究活動を深めていこう！</li> <li>★「伝え合い」から「学び合い」へ高めよう！</li> </ul>
12	今年度の研修の成果と課題の共通理解	
1～3	・共通理解されたことをもとにした授業改善の継続	

## (2) WEB配信テストの取組

取組は以下のような流れで行っている。

過去問題の実施→診断問題実施→採点・集計・分析→分析結果の回覧による職員の共通理解  
→診断問題を活用した補充学習・授業への反映→サポート問題の実施→採点・補充学習

### ①時間の確保

清掃の時間に替えて特設した学習時間（ぐんぐんタイム、週1回）を使って、診断問題、補充学習を実施する。

### ②分析結果の活用

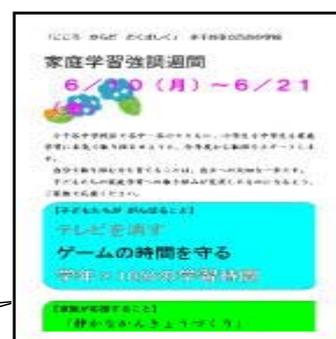
分析は担任が行うが、分析結果については、全職員で共通理解を図り、他の学年も授業改善に役立てる。また、WEB配信テストの解説も一緒に回覧し、授業改善に役立てる。

## (3) 家庭学習の取組

### ①中学校との連携

中学校の定期テスト期間に合わせた家庭学習強調週間を設け、家庭での静かな環境作りやメディアコントロールなど、保護者へも協力をお願いする。全校で行うことで、保護者の意識を高める。

掲示できるように！  
(家庭掲示用パンフ)



### ②内容の吟味と紹介

授業と関連させた家庭学習に取り組ませることで、授業への意欲を高める。また、他の参考となる家庭学習ノートを廊下に展示することで、他児の取組の様子や内容をみんなで見合う場を設ける。

## (4) 家庭との連携

### ①家族学習会

学習参観時に合わせ、家族と子どもが一緒にメディアコントロールにかかわる学習を行う。

「家族で一緒に聞く」ことが効果的！



### ②サマースクール

夏休みの後半に、夏休みの課題で分からなかったことや苦手な学習を学べる学習会を開催。保護者ボランティアを募り、子どもの学習の様子について共通理解する機会とした。

### Ⅲ 成果と課題

#### 1 授業改善にかかわって

##### (成果)

- ・一人で考える時間を確保する
  - ・思考の流れを見届ける
  - ・一人一枚のホワイトボードの活用
  - ・子どもの話す時間を十分確保し、考えを引き出す
  - ・まちがってもいいのだという学習環境の雰囲気作り
- これらのことを意識し、授業改善を行ったことで以下のような成果があった。

◎積極的に考えを伝える児童が増えた。

◎質問やまちがいの指摘など、児童同士のかかわりが増えた。

##### (課題)

- ・分からない児童への支援、互いの考え方の違いを明確にさせるための手立て、伝え合う方法の工夫について研修を深める。
- ・「伝え合う」力が高まったと考えられる児童の具体的な姿と今後の課題の共通理解を行う。



#### 2 校内研修にかかわって

##### (成果)

◎全学年の公開授業と協議会を積み重ねたことにより、めざす姿を「伝え合う」から「学び合う」へと一歩進めることができた。

◎協議会のもち方も研修することにより、〈小グループでの付箋紙によるKJ法〉→〈各グループの改善策を見合う共有タイム〉→〈協議会の決定〉→〈全体での改善策の協議〉→〈指導〉という流れで協議会を行うことができた。そのことにより、問題点の洗い出しから改善策まで話し合うことができ、それらを授業改善に生かすことができた。

##### (課題)

- ・児童の学び合う姿とはどんな姿なのか、具体的なイメージを年度初めに共通理解するための工夫が必要である。
- ・教師のどんな働きかけで児童の学びが深まったかについて指導過程を形成的に評価する。



#### 3 WEB配信テストにかかわって

##### (成果)

- ・算数では、県の期待される平均正答率を上回る学習内容が増えている。
- ・全職員協力のもとWEB配信テストへの取組が行われたことで、担任の負担感も減り、WEB配信テストを活用しようという意識が高まった。
- ・つまずき箇所を見通して指導計画や授業時間の配分を考え、授業に臨むようになった。
- ・テストの結果と分析を全職員に回覧することで、各学年のつまずきが把握でき、下学年の頃から見通しをもって授業を行うことができるようになった。

##### (課題)

- ・国語では、県の期待される平均正答率を下回る学習内容が多い。日々の授業でも意識し、学習内容定着のための授業改善を行う。
- ・WEB配信テストを日々の授業に生かす工夫を行う。